

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科専門研修プログラムについて
2. 研修プログラムの特徴、研修スケジュールおよび施設群
3. 研修の目標
4. 研修の方法
5. 研修の評価
6. 専攻医受入数
7. 地域医療・地域連携への対応
8. サブスペシャリティ領域との連続性について
9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
10. 研修プログラムを支える体制
11. 研修実績記録システム、マニュアル等について
12. 研修プログラムの評価と改善
13. 専攻医の採用と修了
14. 問い合わせ、病院見学

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科専門研修プログラム

について

学問と教育の聖地、湯島・昌平坂にたつ東京医科歯科大学では「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを理念としています。整形外科学としてこの理念を達成するために、専門研修プログラムとしては、以下の5点の修得を重要視しています。

1. 豊富な知識

整形外科医師としてあらゆる運動器疾患に関する知識を系統的に理解し、さらに日々進歩する新しい知見を時代に先駆けて吸収し続ける。

2. 探究心

あらゆる運動器疾患に対する臨床的な疑問点を見出して解明しようとする姿勢を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を身につける。

3. 倫理観

豊かな人間性と高い倫理観のもとに、整形外科医師として心のこもった医療を患者に提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する。

4. 実践的な技術

豊富な症例数に基づいた研修により、運動器全般に関する的確な診断能力を身につけ、適切な保存療法、リハビリテーションを実践する。そして基本手技から最先端技術までを網羅した手術治療を実践することで、運動器疾患に関する良質かつ安全な医療を提供する。

5. グローバルな人材の育成

国際学会での研究発表や国内外留学を通じて、世界に通用するだけでなく世界のリーダーとなれるようなグローバルな人材の育成を目指す。

本プログラムにおいては指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢をもつことが大切です。整形外科専門医は自己研鑽し自己の技量を高めると共に、積極的に臨床研究等に係わり整形外科医療の向上に貢献することが必要となります。チーム医療の一員として行動し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くことによって周囲から信頼されることも重要です。本研修プログラムでの研修後に皆さんは運動器疾患に関する良

質かつ安全で心のこもった医療を提供するとともに、将来の医療の発展に貢献できる整形外科専門医となることが期待されます。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得するプロセスで研修を行います。整形外科後期研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められておりますが、基幹病院および協力病院全体において年間新患数7万名以上、年間手術件数16,000件以上（表2）の豊富な症例数を有する本研修プログラムでは必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。また東京医科歯科大学整形外科集談会への参加（年2回）および同会での研究発表（3年目まで年1回）、外部の学会での発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。本研修プログラム修了後に、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修を開始する準備が整えられます。

2. 研修プログラムの特徴、研修スケジュールおよび施設群

本研修プログラムでは、基幹病院および協力病院全体において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。

①基幹施設の東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科での研修

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修に加えて、東京医科歯科大学の大きな特徴である大学院大学の側面を活かし、その後の大学院進学に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことができます。

②多様な専門研修連携施設での研修

脊椎外科、スポーツ整形外科、関節外科、手外科、外傷、骨軟部腫瘍、小児整形などそれぞれに特色をもった23におよぶ病院があり、その多くは首都圏内に

集約されています。これらの連携施設で、地域医療から最先端の診療までを経験することができます。

③研修プログラム修了後の進路

大学院へ進学するコースと、直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコースがあります。また、多くの医師が国内外への留学を経験しています。

①東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科での研修

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科は1944年に開講し、2014年に開講70周年を迎えた歴史ある整形外科教室です。初代青池勇雄教授、2代古屋光太郎教授、3代四宮謙一教授と続き、2011年からは大川淳教授が教室を主宰しています。その特徴としては主に脊椎班、膝スポーツ班、股関節班、上肢班、腫瘍班の5つの診療班からなり、その他小児整形、外傷の専門医も所属します。また当院リハビリテーション部部長も本学整形外科出身であり、密な連携を取って研修を行います。さらに日本最大の施設を有する高気圧治療部や、スポーツ医学を扱うスポーツサイエンスセンターを有し、整形外科と連携を取りスポーツ選手の診療にあたっています。一方大学院大学として、整形外科内に2つの大学院講座（整形外科学と運動器外科学）と4つの寄付講座を持ち、また再生医療を扱う再生医療研究センターの教授も整形外科から輩出しています。臨床解剖学講座や細胞生理学講座も整形外科スタッフが教員を務めています。そのため大学における研修では、それぞれの診療班に所属して研修することによりサブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けると同時に、臨床研究に対する関わりを深く持つことができます。また多くの大学院講座との連携により、リサーチプログレス（研究進捗検討会）やジャーナルクラブ（論文抄読会）を通じて基礎研究、トランスレーショナルな研究に関しても深い関わりを持つことができます（表1、週間予定参照）。

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科週間予定（共通）

	月	火	水	木	金
朝	術前カンファ	大学院リサーチ チプログレス		臨床ジャーナル クラブ	基礎ジャーナルクラブ モーニングレクチャー
午前			外傷手術		
午後	教授回診 術後カンファ				

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科週間予定（診療班ごと）

診療班		月	火	水	木	金
脊椎	午前	教授外来	脊髄造影検査/ 手術	術前カンファ	関連病院脊椎 カンファ 手術	術後カンファ
	午後	神経根ブロック 脊椎勉強会	手術	電気生理学的検査	手術	脊椎専門外来
膝スポーツ	午前	病棟	初診外来	病棟	手術	手術
	午後	関節カンファ 膝カンファ	教授外来 膝スポーツ外 来	術前患者診 察 リハビリカ ンファ	手術	手術
股関節	午前	術前患者診察	手術	病棟	術前患者診察	手術
	午後	関節カンファ	手術	病棟	股専門外来 リハビリカン ファ	手術 股カンファ
上肢	午前	外来	手術	外来	手術	専門外来
	午後	外来 関節カンファ	手術	専門外来	手術 リハビリカン ファ	専門外来 ハンドカンファ 縫合ワークショップ (3月に1回)
腫瘍	午前	外来	手術	外来		手術
	午後	外来	手術 骨軟部腫瘍カ ンファ	専門外来		手術 骨転移カンファ

表1 東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科週間予定

②専門研修連携施設での研修

本専門研修プログラムの連携施設は、図1のとおり、大きく1) 都市型総合研修病院、2) 高度専門領域研修病院、3) 地域中核病院の3種類に分けられ、全て専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

1) 都市型総合研修病院

i. 大型総合病院：年間1000例以上の手術件数があり、幅広い疾患を取り扱う大規模総合病院。横浜市立みなと赤十字病院(Ⅱ型基幹施設)、土浦協同病院(Ⅱ型基幹施設)など

ii. 都市型総合病院

さいたま赤十字病院、日産厚生会玉川病院、中野総合病院、同愛記念病院などの都市型総合研修病院では救急医療としての外傷に対する研修に加えて、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修(土浦：上肢・脊椎・膝関節、さいたま赤十字：上肢・股関節、玉川：股関節、中野：スポーツ、同愛：上肢・スポーツ・股関節)を受けることができます。

2) 高度専門領域研修病院：各分野の最先端治療を行います。

川口工業総合病院、済生会川口総合病院、九段坂病院、がん研有明病院、埼玉県立がんセンター、千葉県こども病院など

高度専門領域研修病院では、川口工業総合病院や前述の同愛記念病院、中野総合病院においてはサッカー、ラグビー、アメリカンフットボール、大相撲、柔道など多様な種目のスポーツドクターを務める医師のもとスポーツ整形外科を研修することができ、研修中または修了後にスポーツドクターとして国内外の遠征に帯同する機会を得ることも可能です。また済生会川口総合病院では脊椎および上肢、九段坂病院では脊椎、がん研有明病院並びに埼玉県立がんセンターでは骨軟部腫瘍、千葉県こども病院では小児整形に特化したサブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けることができます。

3) 地域医療研修病院：その地域における地域医療の拠点となる施設です。

佐久医療センター、諏訪中央病院、JAとりで総合医療センター、草加市立病院、埼玉石心会病院、青梅市立総合病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、多摩北部医療センター、川島整形外科病院など

地域中核病院では、地域医療の拠点として、地域医療ならびに外傷に対する研修を幅広く受けることができます。他県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。

いずれの連携施設も豊富な症例数を有しており（表2）、連携施設研修では毎年平均200件以上の手術執刀経験を積むことができます（図2）。また執刀した症例は原則として主治医として担当することで、医師としての責任感や、患者やメディカルスタッフなどと良好な信頼関係を構築する能力も育んでいきます。

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科専門研修プログラム

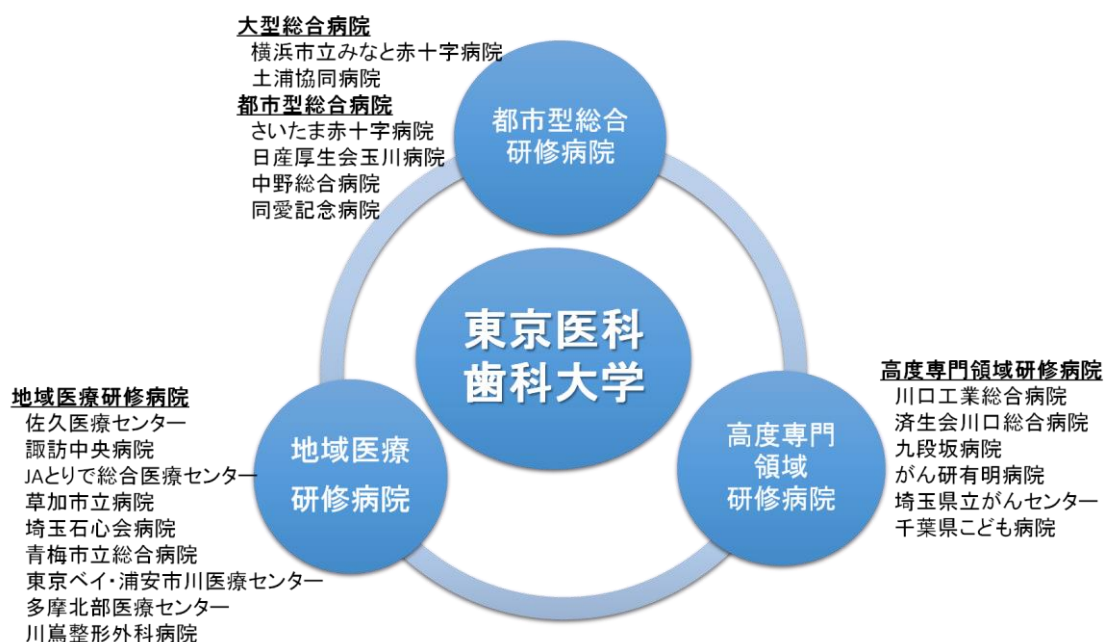


図1 東京医科歯科大学医学部附属病院専門研修プログラム概要

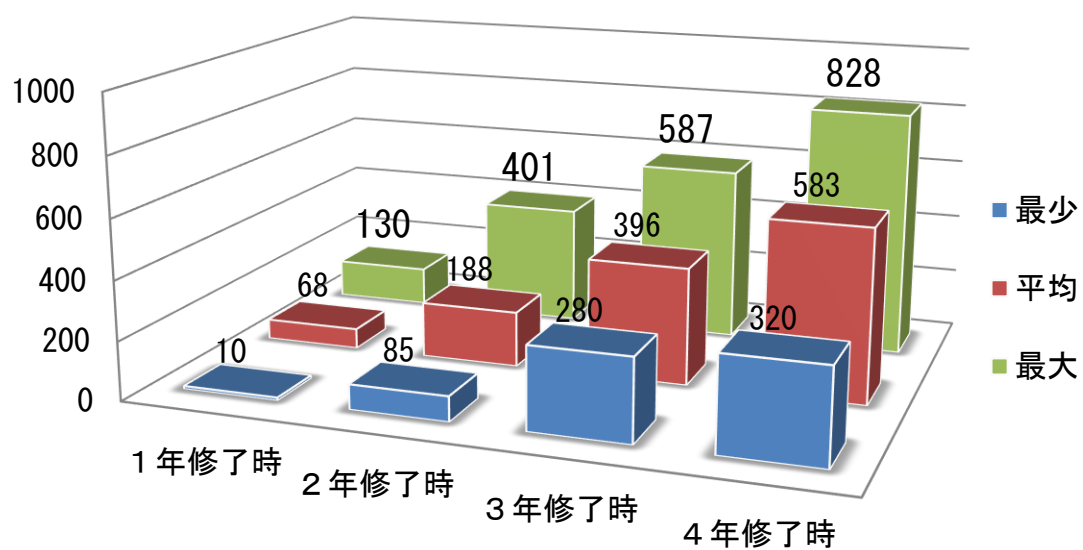


図2 後期研修医手術執刀件数実績

表2 東京医科歯科大学医学部附属病院および専門研修連携施設の実績

No.+ AA8: N29	施設名称	都道府県	新患数 (2017)	手術数(2017)								
				脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポー ツ	小児	腫瘍	計
0	基幹施設 東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都	2510	296	156	401	157	52	145	9	83	1299
1	連携施設 横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県	2592	266	201	208	587	8	55	22	10	1357
2	連携施設 九段坂病院	東京都	3352	1009	0	4	0	0	0	11	21	1045
3	連携施設 日産厚生会 玉川病院	東京都	5374	0	101	895	612	0	22	0	5	1635
4	連携施設 草加市立病院	埼玉県	604	0	177	116	307	5	50	43	11	709
5	連携施設 東京ベイ浦安市川医療センター	千葉県	2677	122	150	133	495	0	13	0	12	925
6	連携施設 埼玉県立がんセンター	埼玉県	514	0	0	0	0	0	0	0	249	249
7	連携施設 佐久総合病院 佐久医療センター	長野県	1402	335	190	108	311	2	4	20	9	979
8	連携施設 千葉県こども病院	千葉県	623	0	48	43	37	0	0	186	50	364
9	連携施設 多摩北部医療センター	東京都	1933	0	76	135	222	0	52	0	2	487
10	連携施設 川島整形外科病院	大分県	10267	0	460	709	0	1	0	63	38	1271
11	連携施設 さいたま赤十字病院	埼玉県	3599	388	421	649	807	31	127	2	49	2474
12	連携施設 新渡戸記念中野総合病院	東京都	3465	0	382	369	577	0	57	12	9	751
13	連携施設 諏訪中央病院	長野県	3799	75	126	128	329	0	54	0	12	724
14	連携施設 同愛記念病院	東京都	2,231	0	277	284	289	2	332	1	13	1187
15	連携施設 埼玉石心会病院	埼玉県	3261	87	115	116	349	4	3	28	11	713
16	連携施設 青梅市立総合病院	東京都	1654	103	60	36	301	2	1	25	6	534
17	連携施設 土浦協同病院	茨城県	6840	157	342	286	672	7	29	24	23	1540
18	連携施設 埼玉県済生会川口総合病院	埼玉県	4187	881	356	29	24	3	3	25	0	1321
19	連携施設 がん研究会有明病院	東京都	864	0	0	0	3	0	0	51	584	638
20	連携施設 川口工業総合病院	埼玉県	1204	0	156	270	207	20	490	25	1	1169
21	連携施設 JAとりで総合医療センター	茨城県	3328	46	134	95	306	4	7	0	11	603
22	連携施設 練馬総合病院	東京都	665	143	56	70	262	0	2	0	3	536
23	連携施設 同仁病院	沖縄県	440	16	33	139	71	0	26	0	11	296
計			67385	3924	4017	5223	6925	141	1472	547	1223	22806

本専門研修コースの具体例として表3のごとく、東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科の専門研修施設群の各施設の特徴（脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍）に基づいたコースの例を示しています。各専門研修コースは、各専攻医の希望を考慮し、個々のプログラムの内容や基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるような研修コースを作成しています。流動単位の5単位については、必須単位取得後にさらなる経験が必要と考えられる分野や、将来希望するサブスペシャリティ分野を重点的に研修することが可能です。

表3 研修コースの具体例

	1年目	2年目	3年目	4年目	計
コース1	大学	がん研/九段	土浦	多摩北	
a 脊椎 6 単位		6			6
b 上肢・手 6 単位			3	3	6
c 下肢 6 単位	3		3		6
d 外傷 6 単位			3	3	6
e リウマチ 3 単位	3				3
f リハビリ 3 単位			3		3
g スポーツ 3 単位	3				3
h 地域医療 3 単位				3	3
i 小児 2 単位	2				2
j 腫瘍 2 単位		2			2
流動 5 単位	1	4			5
計	12	12	12	9	45
コース2	川工/大学	こども/がん研	石心会	済生会	
a 脊椎 6 単位	3			3	6
b 上肢・手 6 単位		3		3	6
c 下肢 6 単位	3		3		6
d 外傷 6 単位			3	3	6
e リウマチ 3 単位	3				3
f リハビリ 3 単位			3		3
g スポーツ 3 単位	3				3
h 地域医療 3 単位			3		3
i 小児 2 単位		2			2
j 腫瘍 2 単位		2			2
流動 5 単位		5			5
計	12	12	12	9	45

③研修プログラム修了後の進路

大きく分けて大学院へ進学するコースと、直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコースがあります（図3）。大学院へ進学する場合、研修修了の翌年度より整形外科に関連する大学院講座に入学し、主に基礎研究を行います（骨・軟骨再生、脊髄・神経、関節炎や解剖などの基礎研究）。また特例として、3年目までに十分な研修を行うことができたと判断できた専攻医については、4年目に社会人大学院に入学し、大学及び近隣連携病院に勤務しながら研究を開始し、1年早く学位を取得することも可能です。大学院卒業後はサブスペシャリティ領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事しますが、国内外への留学で、さらに研究の幅を深める選択肢もあり、最近では多くの医師が留学を経験しています。一方、研修プログラム修了後にサブスペシャリティ領域の研修に直接進む場合には、進みたい領域の専門診療班に所属し、東京医科歯科大学整形外科ならびに連携施設において専門領域の研修を行います。いずれのコースにおいても研修終了翌年度から行うためには、専攻研修4年目の6月の時点で、後述する修了認定基準を満たす見込みが得られていることが必要です。

後期研修の流れ・研修後の進路

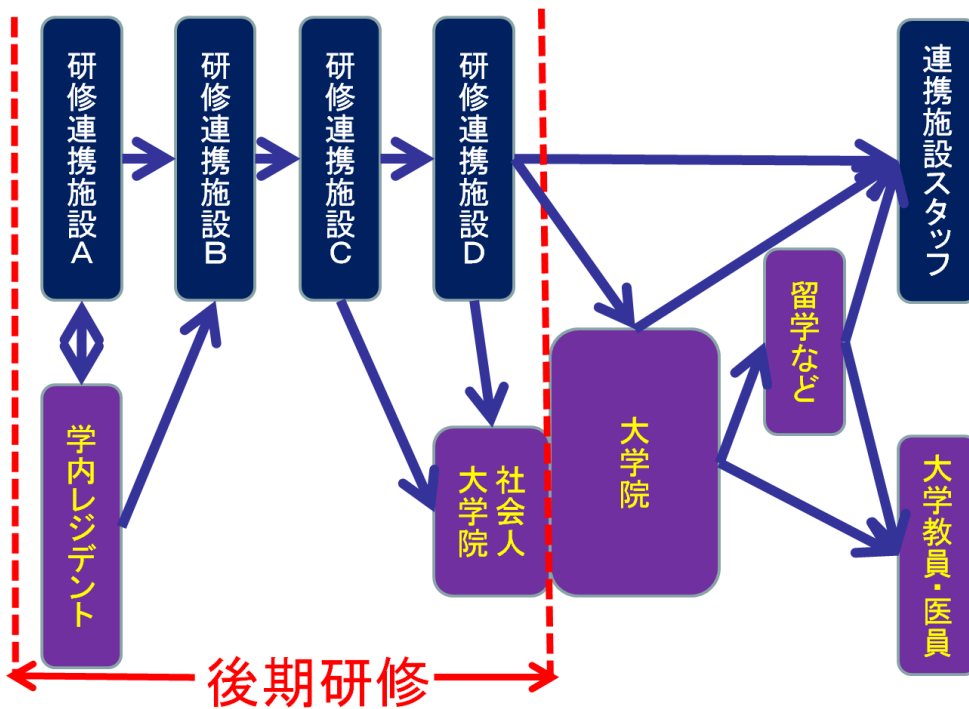


図3 研修プログラムの流れ・研修後の進路

3. 研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）
- 3) 診療記録の適確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと

② 到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を別添する資料1に示します。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を別添する資料2に示します。

3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコルを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。

vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記 2 項目を定めています。

- i. 東京医科歯科大学整形外科集談会への参加（年 2 回）および同会での研究発表（3 年目まで年 1 回）。
- ii. 外部の学会での発表（年 1 回以上）と論文作成（研修期間中 1 編以上）。

4) 医師としての倫理性、社会性など

i. 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに患者・家族への診断・治療に関する説明に参加し、実際の治療過程においては受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につけていきます。

ii. 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

整形外科専門医として、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を実践できること、医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが必要です。本専門研修プログラムでは、専門研修（基幹および連携）施設で、義務付けられる職員研修（医療安全、感染、情報管理、保険診療など）への参加を必須とします。また、インシデント、アクシデントレポートの意義、重要性を理解し、これを積極的に活用することを学びます。インシデントなどが診療において生じた場合には、指導医とともに報告と速やかな対応を行い、その経験と反省を施設全体で共有し、安全な医療を提供していくことが求められます。

iii. 臨床の現場から学ぶ態度を修得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。本専門研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」を実践し、個々の症例に対して、診断・治療の計画を立てて診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは個々の症例から幅広い知識を得たり共有したりすることからより深く学ぶことが出来ます。

iv. チーム医療の一員として行動すること

整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、的確なコンサルテーションができること、他のメディカルスタッフと協調して診療にあたるということが求められます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに個々の症例に対して、他のメディカルスタッフと議論・協調しながら、診断・治療の計画を立てて診療していく中でチーム医療の一員として参加し学ぶことができます。また、毎週行われ

る症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、指導医とともにチーム医療の一員として、症例の提示や問題点などを議論していきます。

v. 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担ってもらいます。本専門研修プログラムでは、基幹施設においては指導医と共に学生実習の指導の一端を担うことで、教えることが、自分自身の知識の整理につながることを理解していきます。また、連携施設においては、後輩医師、他のメディカルスタッフとチーム医療の一員として、互いに学びあうことから、自分自身の知識の整理、形成的指導を実践していきます。

③ 経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等）

1) 経験すべき疾患・病態

別添する資料3：整形外科研修カリキュラムに沿って研修します。経験すべき疾患と症例数については、資料3：整形外科研修カリキュラムを参照してください。

2) 経験すべき診察・検査等

別添する資料3：整形外科研修カリキュラムに明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標に示します。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については3年9か月間で5例以上経験します。

3) 経験すべき手術・処置等

別添する資料3：整形外科専門研修カリキュラムに明示した一般目標及び行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。

本専門研修プログラムの基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

4) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）

別添する資料3：整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

i. 研修基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院が存在する東京23区以外の地域医療研修病院において3ヶ月（3単位）以上勤務します。

ii. 本専門研修プログラムの連携施設には、その地域において地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院）が含まれています。そのため、連携施設での研修中に以下の地

域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。

- ・ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践できる。
- ・ 例えば、ADL の低下した患者に対して、在宅医療やケア専門施設などを活用した医療を立案する。

5) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導きだし、論理的に正しくまとめる能力を修得するため、年 1 回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中 1 編以上の論文を作成します。

東京医科歯科大学整形外科同門会が主催する整形外科卒後研修セミナー（年 2 回 6 講演、4 年間で 24 講演）に参加することにより、他大学整形外科教授からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

東京医科歯科大学整形外科集談会への参加（年 2 回）、さらに同会での研究発表（3 年目まで年 1 回）を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

4. 研修の方法

① 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

本研修プログラムにおいては手術手技を 600 例以上経験し、そのうち術者としては 300 例以上を経験することができます。尚、術者として経験すべき症例については、別添する資料 3：整形外科専門研修カリキュラムに示した（A：それぞれについて最低 5 例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低 1 例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。

術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・

研究的治療を学習します。特に本研修プログラムでは、東京医科歯科大学整形外科同門会が主催する整形外科卒後研修セミナー（年2回6講演、4年間で24講演）に参加することにより、他大学整形外科教授からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを利用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得することを目標とします。

1) 具体的な年度毎の達成目標は、資料1：専門知識習得の年次毎の到達目標及び資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標を参照のこと。

2) 整形外科の研修で修得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容を修練するにあたっては、別添した研修方略（資料6）に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。研修コースの具体例は表3または資料5：研修スケジュールに示した通りです。

5. 研修の評価

① 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料7）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムからwebで入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習 (FD)

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

②総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修 4 年目の 3 月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

修了認定基準は、

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（別添の専攻医獲得単位報告書（資料 9）を提出）。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
の全てを満たしていることです。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表（資料 10）に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. 専攻医受入数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4 学年分）は、当該年度の指導医数×3 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施

設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、(年間新患数が 500 例、年間手術症例を 40 例) × 専攻医数とされています。

この基準に基づき、専門研修基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科と専門研修連携施設全体の指導医数は 108 名、年間新患数 8 万名以上、年間手術件数 22,000 件以上と十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために 1 年 13 名程度を受入数とします。また上述のごとく、本研修プログラムでは指導医数・症例数に余裕があるため、専門研修連携施設のうちⅡ型専門研修プログラム群の基準を満たす大型総合病院が基幹施設となる場合にも、本研修プログラムの研修領域に影響はなく、専攻医は求められる基準を上回る研修を積むことができます。

7. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・習得します。本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院が存在する、東京 23 区以外の地域医療研修病院に 3 ヶ月 (3 単位) 以上勤務することによりこれを行います。

地域において指導の質を落とさないための方法として、地域医療研修病院の指導医には東京医科歯科大学整形外科同門会が主催する整形外科卒後研修セミナーの参加を義務付け、他大学整形外科教授の多領域における最新知識に関する講義を受けると同時に、自らが指導する専攻医の集談会あるいは学会への参加を必須としています。また研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることとなります。

8. サブスペシャリティ領域との連続性について

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、スポーツ整形外科、外傷、手外科等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

10. 研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、3年9か月間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

11. 研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として別添資料の日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システム（作成中）を用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。

② 人間性などの評価の方法

指導医は別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料 10 参照）を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル（資料 13）、②整形外科指導医マニュアル（資料 12）、③専攻医取得単位報告書（資料 9）、④専攻医評価表（資料 10）、⑤指導医評価表（資料 8）、⑥カリキュラム成績表（資料 7）を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いて web 入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。

1) 専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医研修カリキュラム（資料 13）および日本整形外科学会ホームページ参照。自己評価と他者（指導医等）評価は、整形外科専門医管理システム（作成中）にある④専攻医評価表（資料 10）、⑤指導医評価表（資料 8）、⑥カリキュラム成績表（資料 7）を用いて web 入力します。

2) 指導者マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアル（資料 12）および日本整形外科学会ホームページを参照。

3) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム（資料 7 参照）の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いて web フォームに入力します。

4) 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表 web フォームに入力することで記録されます。

5) 指導者研修計画（FD）の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

1 2. 研修プログラムの評価と改善

①専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

②専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

1 3. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

採用方法

基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。申請書は

(1) 東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科の website (URL : <http://www.tmd.ac.jp/med/cpe/kouki/saiyo.html>) よりダウンロード

(2) 医局に電話で問い合わせ(03-5803-5279)

(3) 医局に e-mail で問い合わせ (fujiorth@ tmd. ac. jp)

のいずれの方法でも入手可能です。現在の予定では、9月あるいは10月に第1次の書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。定員に余裕がある場合のみ、第2次以降の採用試験を行う予定です。

② 修了要件

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- 5) 1回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として1編以上の論文があること。

以上1)～5)の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の9月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

14. 問い合わせ、病院見学

東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科は随時、本研修プログラムおよび病院見学に関する問い合わせを受け付けています。下記までご連絡ください。

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学医学部附属病院 整形外科

担当：藤田浩二

Tel: 03-5803-5279

E-mail: fujiorth@tmd.ac.jp